

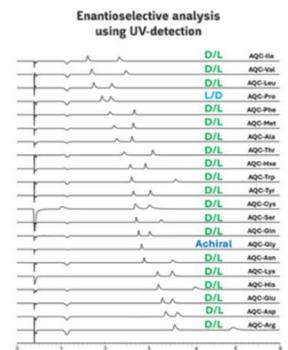
株式会社ダイセル ランチョンセミナー



1. 1本のカラムで解決！～5分以内でDLアミノ酸を一斉分析～

株式会社ダイセル ライフサイエンス SBU ファーマテック BU ライフサイエンス研究開発センター  
元田 秀樹

アミノ酸の光学異性体分析は、生体内代謝の解明や食品品質評価など、幅広い分野で重要な役割を担っている。従来は、誘導体化によるジアステレオマー法やキラルカラムを用いた分離法が適用されてきたが、誘導体化および分析に時間を要すること、分析可能なアミノ酸種が限定されることなどの課題がある。そこで、当社は新規キラルアミノ酸分析カラムを開発し、誘導体化した20種類のアミノ酸の光学異性体をわずか5分以内で分離する技術を確立した（右図）。本セミナーでは、この新規カラムの詳細な分析手法と実例を紹介する。



2. 糖類・メタボローム分析に貢献！～DCpak カラムのご紹介～

株式会社ダイセル ライフサイエンス SBU ファーマテック BU ライフサイエンス研究開発センター  
永井 寛嗣

糖類分析は、食品の品質評価や栄養成分管理において欠かすことができない。また、代謝物（メタボローム解析対象化合物）の中でもリン酸基を有する化合物は、主要な生化学経路において中心的な役割を担っている。糖類や代謝物は、異性体や構造類似化合物が多く、非常に高い親水性を示すため、従来の逆相 HPLC では保持能が低く、分離が不十分となる場合が多い。当社が提供する DCpak<sup>®</sup> P4VP カラム および DCpak<sup>®</sup> PMPC カラム を親水性相互作用クロマトグラフィー（HILIC）モードで使用することで、糖類や代謝物の異性体分離においてとくに良好な結果が得られることがわかった。本セミナーでは、標品を用いた分析事例とその応用例について紹介する。



3. 次世代シーケンサー（NGS）での DNA 配列解析効率を上げる前処理試薬のご紹介 ～ターゲットキャプチャー試薬 myBaits ～

株式会社ダイセル ライフサイエンス SBU ライフサイエンス製品イノベーション Gr  
大倉 裕道

近年、植物の選抜・育種、さらには土壌中の細菌類の解析のために NGS を使用する場面が増加してきている。しかしながら、植物、特に穀物の DNA は他の生物種に比べ、長大かつ複雑であり、環境から回収した DNA の場合は興味の対象外の DNA が多量に混入するため、解析効率の低さがしばしば課題となっていた。これらサンプルの NGS の解析前に myBatis を使用することで所望の生物種の DNA、所望の DNA 領域の解析効率を上げることが可能であり、その事例をふまえて報告する。

